

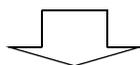
《あきた型学校評価シート2》

令和6年度 県立ゆり支援学校

| | |
|------|------|
| 評価領域 | 学習指導 |
|------|------|

| | | |
|------------|--|---|
| 重点目標 | 個々への指導を支える校内協力体制の確立 | P |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校は同じ学級に医ケアの児童生徒から発達障害の特性を有する児童生徒まで幅広い実態の児童生徒も在籍している。 ・障害特性等に起因する行動から個別対応が必要な生徒指導上の課題が多く、個々への対応に追われ、指導・支援苦慮している。 ・家庭環境が複雑な家庭も多く、それに起因する問題行動やトラブルがあり、諸課題解決に向けては外部関係機関との連携が必須である。 | |
| 具体的な目標 | 支援会議の効果的な活用 | |
| 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、本人との対話（計画的な面談等）を通じた信頼関係の構築関係者での適切な指導 ・支援の方向性の共有をはかるための校内支援会議の開催 ・積極的な外部専門機関との連携と関係者支援会議の開催 | |
| 取組状況 | <ol style="list-style-type: none"> ①事案発生時には速やかに管理職や学部主事を中心に関係者が集まり、情報共有と支援の方向性について意見を出し合った。 ②保護者への連絡もできるだけ早急に行い、電話ではなく必ず来校してもらい複数の職員が参加し話し合いをもった。 ③一人に対して複数回の支援会議を行った。内容や状況に応じてメンバーを検討して行った。 | D |
| 達成状況 | <ol style="list-style-type: none"> ①初動対応を速やかに行うことで役割分担が明確になり、担当者の負担感が軽減した。 ②複数の職員で対応することで保護者からの学校への信頼感が深まった。 ③対象の児童生徒について複数回支援会議を行うことで支援の評価や軌道修正ができ、関係機関との連携も深まった。 | |

| | | |
|-----------|--|---|
| 自己評価 | (根拠) | C |
| (評価) A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援会議を積み重ねることで、保護者からは「話をじっくり聞いてもらえて有り難い」、「丁寧に対応してもらい感謝している」などの言葉が聞かれた。 ・ 職員アンケートから生徒指導はチームでの対応が大事であること、校外の各専門機関との対応について迅速な話し合いを今後も継続していきたいという意見が多数挙げられていた。 | |



評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

| | | |
|----------------|---|---|
| 学校関係者 評価と意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会委員を対象に行ったアンケートの「卒業後の自立と社会参加に向けて、福祉、行政、事業所等と連携した指導を行っている」の項目でA（よい）+B（だいたいよい）で100%の評価であった。 | C |
| (評価) A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会でも「校報やHPで見ていると子どもたちが地域で生き生きとした活動の様子がみられる」「子どもたちが自分の力を伸ばそうとしている姿がみられる」等の感想をいただいた。 | |



| | | |
|-----------------------------------|--|---|
| 自己評価及び 学校関係者評 価に基づいた 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の支援体制を基に、教師の個々の力量に頼るのではなく、チームとして対応する体制づくりを構築する。 ・ 本校のキャリアパスポート「未来へのスケッチ」を活用した児童生徒と対話する時間を定期的に設定し、児童生徒と信頼関係を構築し、児童生徒が主体的に取り組む姿を目指す。 | A |
|-----------------------------------|--|---|